

## 令和5年度 第1回清瀬市男女平等推進委員会 議事録

日 時：令和5年5月11日（木） 午前10時～12時半

会 場：男女共同参画センター 会議室1・2

出席者：橋本委員長 近藤副委員長 佐藤（眞）委員 松村委員 佐藤（良）委員  
原田委員 鈴木委員 松本委員 田村委員

欠席者：内野委員 長沼委員 山口委員

事務局：地域振興部男女共同参画センター

◎→委員の発言

### 1 男女平等推進本部からの質問について

委員長：男女平等推進本部からの「性別統計はどのような場合にとるべきか」の質問であるが、医学部の入試事件など、女性に対して明らかな差別があったこともある。これらは性別欄をなくすのではなく、選考プロセスを公表すれば問題は解決できる。プロセスで女性差別がおきないことが重要である。

性別欄が男女共同参画の推進に役立つかどうか。配布資料に書いてあるように、施設利用申請書・承認申請書なども内容によっては設けるべきだと思っている。性別によってどのような傾向があるかを確かむことが必要である。

採用試験は入口のところで平等に申込みできるように、というよりは、結果が男女平等に採用されているかが大事である。推進本部は、主旨を理解していないのではないか。

事務局：内閣府の資料は全部で30ページぐらいになるが、メールにてリンク先を付けて周知する。

委員長：内閣府のワーキンググループに参加した人の方々の意見を見ていただけたらと思う。自分が関わっている国際ジェンダー学会の大会で「ジェンダー統

計」というシンポジウムを実施する。皆さんに時間があればそちらにご参加  
くださればと思う。オンライン開催ではなく、対面だけで9月3日である。

◎職員の募集は、「皆さん全く平等に申し込みができます」という形であるようだが、  
結果が平等であることが重要で、男女比率はどうなったのか。職員採用時に性別  
は聞いていないので男女平等になる、というのは、この職員の方が男女平等の本  
質を理解していないのではないか。だから、男女共同参画センターの方からその  
件で、説明してもらえるような回答を作成して出してほしい。

委員長：本当にそう思う。性別欄で問題が起きれば、性別欄をやめるというのは問  
題の解決にならないと思う。

## 2 第3次清瀬市男女平等推進プランの見直しについて

事務局：資料3は、前回の推進委員会ของときにも、ご覧いただいた資料の抜粋にな  
っている。これからどういう手順で進めていくかという見取り図である。  
ステップ2のところをご覧いただきたい。基本的には事業の見直し、プラ  
ンを制定して5年目なので、事業レベルの見直しということ考えたい。

事業内容とか、担当課を修正するとか、調査の対象から外すことが考え  
られるのではないかと思う。事業の上の施策については、その下の事業が  
変更・削除が多ければその施策まで見直すと、いうこと考えたいと思っ  
ている。

それから、もう一つは目標達成を図るための指標があるが、指標は変更  
できない。ただ、達成度の目標値があまりに現実とかけ離れているものが  
あれば、目標値は見直すことも考えられる。見直しを、どう進めていくか  
というと、今日は多分ステップ1と、できればステップ2までいければと  
思う。

ステップ1の資料として、事業の評価結果や指標の達成度の確認、5年  
間で社会情勢が変化しているので関連する法律等を、この後、資料4～6  
で説明する。

そういったものをベースにして、どの事業が見直すべきなのか話し合っていたきたい。事業の達成度の評価で、世論調査の結果をいくつか利用するが、その結果がわかるのが、早くて11月ぐらいではないか。その結果も出てきた段階で、最終の見直し案を作成するのが、ステップ3である。

このプランは、第2次清瀬市配偶者暴力防止基本計画とか清瀬市女性活躍推進計画を含んでいる。それから、今回の見直しにもし、反映できないものがあっても、3年後ぐらいに始まる推進プラン改訂に備えて引き継げるように整理して記録を残していきたい。

最後のステップ4の承認と発表だが、この委員会で決めた原案を、男女共同参画センターから男女平等推進本部の方に提案をして、そこで了承が得られれば、市長の決裁を経て決まる。

年度内なので、令和6年の3月には終わるような、スケジュールでどうか。大変ではあるが、目標としてはやっぱりプランそのものが、本当に清瀬市の男女平等推進に役立っているのか、どう改良すればより推進に役立つのか、そういう観点でやっていけば、楽しく取り組んでいただけるのではないかと思う。

事務局：資料4をご覧ください。過去3年間の委員評価を並べたものである。

途中評価の基準が変わっているため、評価基準変更による評価の下降がある。過去3年の評価はどうだったのかということで、ここに記載してある①はC・Dと悪い委員評価が続いている事業であるが2つパターンが考えられる。ひとつは、単純に担当課の認識不足が低い結果に結びついていること、もうひとつは、そもそも事業が担当課の事業として、ふさわしくないことである。

②は評価が良い。もちろん担当課の努力で良い結果になったとかもあるが、プランの目標に貢献しているのか、事業が男女共同参画推進にあまり関係ないことが書かれていないか、を確認いただければと思う。

事務局：今年の4月に清瀬市は大幅な組織改正というのをやっている。評価のまとめ表をご覧ください。例えば、資料4の①上から3番目に女性職員の

活躍推進があるが、本来であれば、今まで職員課が担当課であったのが、旧「企画部」が、「経営政策部」に変わり「未来創造課」に、職員関係の部署が移った。今まで職員課だったのが未来創造課になっている。

下の方に「CP課」があるがシティプロモーション課の略である。

のちほど、組織改正表を送るので、確認していただきたい。

補足だが、このプランは、かなり細かいプランになっている。制定当時、例えば男女共同参画センターでは、介護講座もあったが、介護講座の中身が果たして「ジェンダー平等」に特化した講座だったかということ、若干、違った。介護に関して実際はそれぞれ介護保険課が担当の部署であり、男女共同参画センターの方では実施できていない。実務とプランとの乖離が事務局側でも、課題だと思っている。

委員長：男女平等推進というのは、男女共同参画センターの役割ではあるが、だからといって、男女平等推進プランに書いてあることは全て男女共同参画センターで実施すべき、ということではないと思う。

事務局：実際に動くのは担当課なのだが、「男女平等」という考え方もぜひ入れてください、とお願いするのが我々の役目だと思う。

事務局：資料5は、プランには「目標指標」というのがあり、目標ごとに指標と目標値というのが定められている。この資料は制定時の実績と、直近の実績を記載している。NAは該当なし、データがないが、今回は調査する予定もないものである。実際のところ、指標が達成したのは、指標2しかない。

委員長：男性の育休取得の場合には、取得期間を、例えば2週間以内とか区切った結果がほしい。平均取得日数では意味がない。

事務局：各課にこれから今年度の男女平等推進プランの進捗状況調査を送る。

その際に追加で確認する。

事務局：「ワークライフバランス」という言葉を知っているとか、あるいは「性的マイノリティ」という言葉を知っているかの割合というのは清瀬市の男女平等推進が進んだ結果ではなく、別の社会的要因で進んだとみられる。そのため、「NA」としている。

事務局：世論調査は、シティプロモーション課が、3年ごとに実施しており、前回（令和2年度）の数値が載っている。

「あらゆる分野を総合的に見て男女平等と感じる人の割合」というところは、世論調査で類似するような、「日常生活で男女の不平等は感じない」という設問項目があり、参考までに、令和2年と平成30年のデータを載せている。ご覧いただくと、わずかに上昇している。

事務局：「Ms.スクエア」の認知度であるが、世論調査の方では「市で発行している広報誌についてあなたはどのように思いますか」というところで聞いている。

◎その認知度はパーセンテージを出したいのであれば、「知らない」人の割合を調べる必要がある。

事務局：変更できるかどうか確認する。ただ、世論調査でいろんな市の広報物を並べて、それで経年変化を見るために、なるべく同じような質問の仕方をしてるので、難しいかもしれない。

◎男女共同参画拠点としてある男女共同参画センターの認知度も男女共同参画の推進を図るときに重要ではないか。

◎調査には、意識調査と実態調査があると思う。他にもあるかもしれないが、どちらかという世論調査は、意識調査ではないか。

事務局：世論調査の生活実感は確かに意識調査である。他にその行動、行動パターンの項目もある。

◎ 指標は経年で取れないような指標になっている。なぜ、5年前に全ての同じ指標で測れない指標になっているのか。

事務局：5年前にこの計画を作ったその前には、実態調査をした。それは男女共同参画に特化した調査であった。

この見直しのときに実態調査を再度するかを検討したが、非常にお金も予算もかかるので、世論調査で数値を見ることになる（令和4年度第4回男女平等推進委員会議事録を参照）。もちろん5年後の計画の見直しのときには、調査をしないといけない。そのときには、制定前と同等のような調査になる。

◎今度の指標を作るときは5年後にも図れるような指標にした方がよい。

事務局：資料6の説明をする。5年間の状況の変化ということで、国とか東京都とかその他の社会状況の変化を新しい順に並べた。（以下資料6の説明）  
このような状況を踏まえて、プランがこれでいいのか見直しは必要だと思う。（以降、資料7の説明）

◎私見ではあるが、調査の評価を経て、性別が偏っている委員会・審議会もある。男女共同参画推進をするなら、男性を対象に対策していかないと、いけないのではないか。調査の中で、審議会での男性が多い理由について、「充て職だから、もう仕方ない」と回答してきている。

今度は市の中だけではなく、その委員会を代表している団体などにも意識を変えてもらうことが必要だと思う。

事務局：すごく重要な指摘だと私も思う。今のようなご意見を反映できるところは反映していくことが大事だと思う。一番、関係するのが例えば、プランの進捗管理と改善という施策があるのだが、ここに入れてもいいのかなと思っている。例えば、集中的にこの課に対して説明会をやるべきだとか、あるいは、ご指摘あったような審議会に対して説明をやるべきだとか、そういう効果的な改善案を出してみるといいのかなと思っている。

◎担当の部署のどちらかと年に1回ぐらいは一緒に話し合えないか。こちらの思っていることは間違っているかもしれないけども、良いことを言っているかもしれないし、伝わるかもしれないし、顔が見える状態にしたい。

担当課に疑問点を聞いたり質問をしてみたりしてみたが、あんまり効果的でないようだ。ただ、文章を直す感じになる。ご指摘があったみたいに一つでも二つでもぜひ、この課と話し合いたいというところを、出していただき、そういう時間を少しでも設けるといいかもしれない。

◎例えば、男女共同参画センターだけがやるのではなくって、推進委員会の場で委員の皆さんの温かい空気に触れてもらうというか、そういう感じがいい。

### 3 その他

(各グループの意見の話し合いが行われた。)

委員長：次回の推進委員会は7月27日(木)10時～正午とする。

以 上